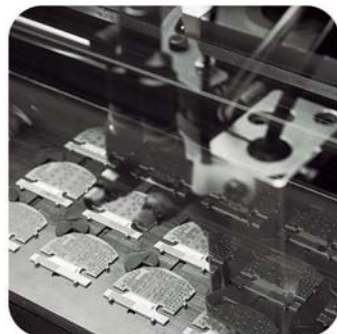
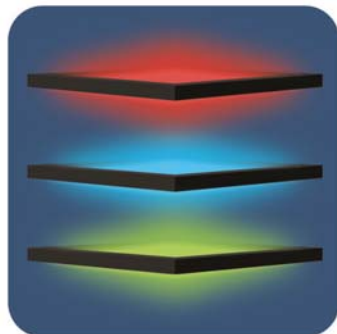




第13期 中間事業報告書

2005年8月1日から2006年1月31日まで

What's **CCS**

株主の皆様へ

[特集] さらなる成長のための 4大戦略と、その進捗状況

1. ハロゲン・蛍光灯攻略商品による市場開拓
2. グローバル化の推進
3. 新規事業の確立
4. 知的財産の強化

TOPICS

連結財務諸表

個別財務諸表

会社概要/株式の状況

p1

p3

p5

p7

p8

p9

p10

p11

p13

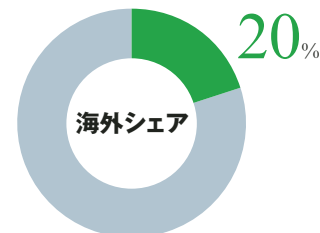
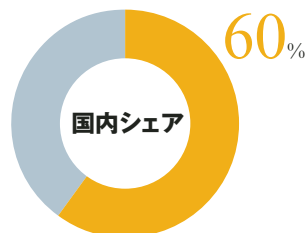
p14

シーシーエス株式会社



国内ではシェア60%を
獲得し、No.1

世界でもシェアを
伸ばしています

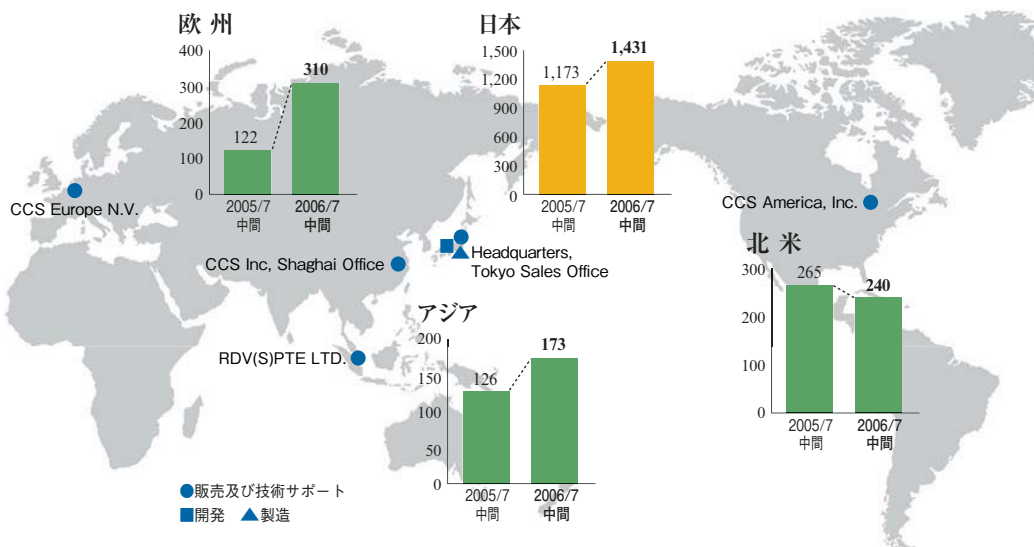


What's CCS

画像処理用LED照明の リーディングカンパニー

CCSは画像処理用LED照明のリーディングカンパニー。私たちの製品は、生産現場の品質検査など各工程において使用され、電子部品、半導体、自動車、食品をはじめ、さまざまなモノづくりの現場を支えています。アメリカ、ベルギー、シンガポールにそれぞれ現地法人を設置し、日本・北米・欧州・アジアの世界四極体制を確立。国内約60%、世界約20%のシェアを獲得しています。

地域別売上高 (単位:百万円)



社 是

お客様に愛と感謝

企業理念

光を科学し、社会に貢献する

企業ビジョン

新たな光産業を創出し、
光の世界企業を目指す

500円玉の撮像事例



同じ500円玉でも光の当て方によってこんなにも撮像が違います。CCSの照明とライティング技術で、ニーズに応じた撮像を可能にします。



同軸照明でカメラと同じ方向から照射。



ローアングル照明を使用し、ワークの低い位置から照射。



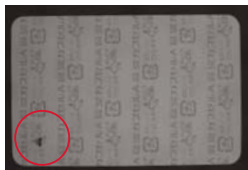
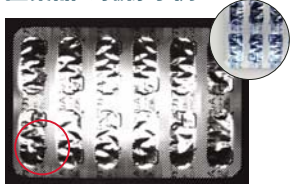
ローアングル照明でワークのほぼ真横から照射。



強みはライティング・ソリューション

CCSが世界のユーザーから支持される理由、それは独自のライティング技術にあります。豊富な経験と蓄積してきたデータをもとに、形も色も千差万別な検査対象物それぞれに応じた最適な光の当て方を導き出し、見たいものを鮮明に浮かびあがらせる技術は、CCSならではの確かな照明選定と技術サポートによるソリューションで信頼を獲得しています。

医薬品の撮像事例



表面の光沢を取り除くことで、薬のプレスタックのピンホールを撮像することができます。

缶詰の撮像事例



あらゆる方向からの照射により、凹凸の影響を打ち消し、文字を撮像することができます。

CCSの事業領域

工業用LED照明事業



新規事業

顕微鏡用照明分野

農業用照明分野

医療用照明分野



顕微鏡用照明、農業・医療分野にも事業を拡大

近年、CCSは画像処理用照明の開発で培った独自の集光技術や放熱技術を生かして「付加価値の高いLED照明」の用途を拡げ、各種の研究に使われる実体顕微鏡用照明をはじめ、農業用途では植物育成用照明、医療用途では歯科用レジン硬化照射器などを市場に投入し、事業領域の拡大を図っています。



株主の皆様へ



株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
当社第13期上半期の業績と今後の事業戦略について株主の皆様にご説明させていただきます。

電子・半導体業界の復調を追い風に増収増益を達成しました。

当期上半期の売上高は、2,155百万円(前年同期比27.8%増)、経常利益は297百万円(前年同期比82.8%増)、純利益は209百万円(前年同期比111.1%増)となりました。

新規事業の展開に立ち遅れがあったものの、当社の前期売上高の約50%を占めた電子・半導体業界のユーザー向けが回復基調に転じたことを主要因として増収増益を達成しました。

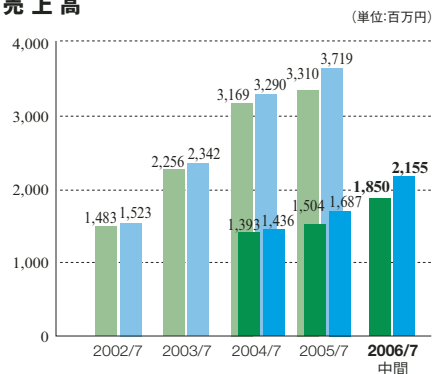
また、シリコンサイクルの影響を軽減するために開発を進めてきました自動車業界や食品・医薬品関連業界向けの新製品を当期上半期に投入することができました。このような新製品投入は、当期初

7つの基本戦略

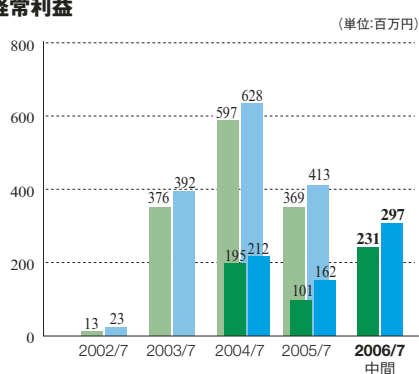
- ハロゲン・蛍光灯攻略商品による市場開拓 …… **特集 P5-6**
- グローバル化の推進 …… **特集 P7**
- 新規事業の確立 …… **特集 P8**
- お客様の満足度向上
- 環境への取組み強化
- 知的財産の強化 …… **特集 P9**
- 財務体質の強化

■ 単体通期 ■ 連結通期
■ 単体中間 ■ 連結中間

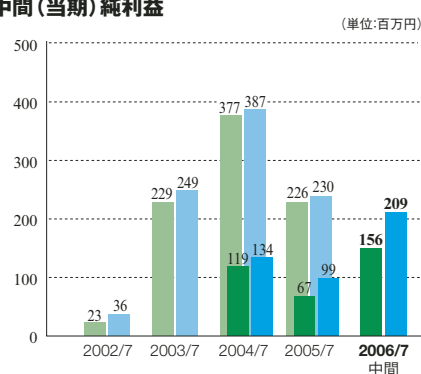
売上高



経常利益



中間(当期)純利益



頭に掲げた7つの基本戦略の一環であり、下半期以降、その成果が着実に業績に現れるものと見込んでいます。なお、これらの基本戦略の進捗状況につきましては、後の特集で詳しくご報告いたします。

これら基本戦略として挙げた7項目は、当社が中期的に売上高100億円企業を達成するための第13期の注力ポイントです。第13期はすなわち三段跳でいう“ホップ”の段階と捉え、今後の確実なステップ、ジャンプにつなげて大きな跳躍を期してまいります。

お客様の満足度向上、環境への取組み強化により、企業価値向上に努めます。

基本戦略にも掲げたように、当社はおお客様の満足度向上と環境への取組み強化を図っています。お客様の満足度向上については、お客様へのヒアリングやアンケートを通して判明した現状の課題である「スピードの改善」に取組んでいます。開発から生産・販売までの期間を短縮することが重要課題であり、営業・技術・生産部門の連携強化と最適な品質検査への見直しなどを行っています。また、お客様のご要望に、より柔軟にお応えするため、製品ラインナップの拡充も進めています。

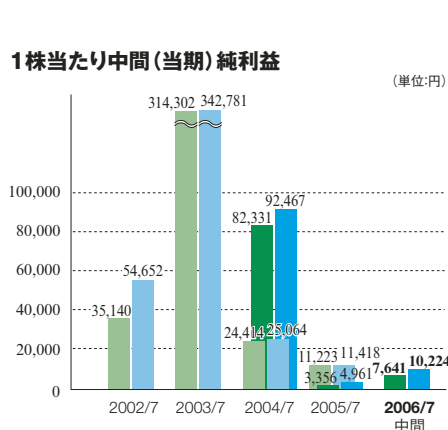
一方、環境への取組みについては、環境にやさしいLED照明を扱う当社自身もまた、環境にやさしい会社であらねばならないとの考え方から、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO 14001の認証取得に向けて、本社・ロジスティックセンター・東京営業所を対象に進めており、2006年6月の取得を予定しています。

「光の世界企業」となり、株主の皆様の期待に応えます。

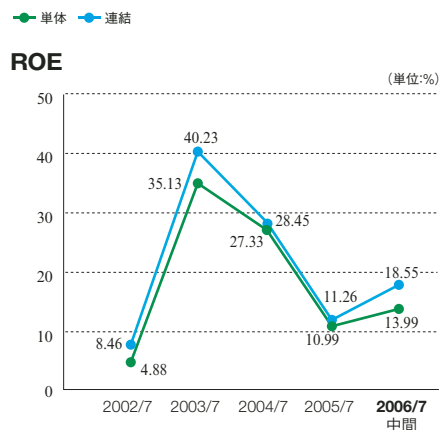
財務体質の強化については、ローコストオペレーションを実践し、従業員一人当たりの生産性を高めることが重要と考え、主要な財務指標を設けて、経営効率の向上に取組んでいます。

LED照明は、今後も様々な分野で利用される可能性を秘めています。当社はその流れをリードすべくLED照明の新たなマーケットを開拓してまいります。「光の世界企業」を目指し、まずは中期的に売上高100億円企業となり、皆様の期待に応えたいと考えております。株主の皆様には、格別のご支援ご鞭達を賜りますようお願い申し上げます。

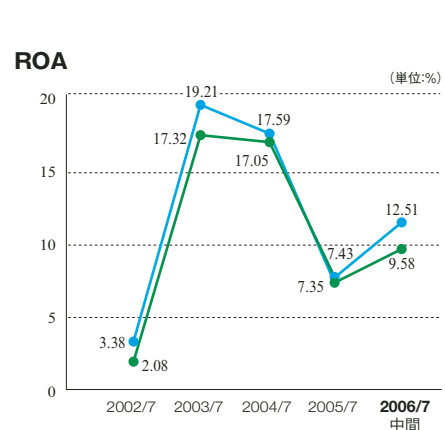
代表取締役社長 米田 賢治



※2004年3月1日付をもって、株式1株を10株に分割しております。



※中間の数値は年換算しております。



※中間の数値は年換算しております。

特集

さらなる成長のための

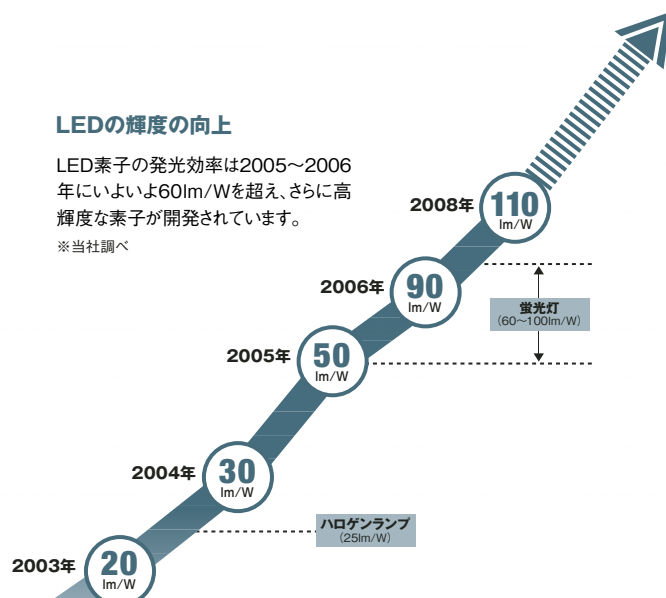
4大戦略と、 その進捗状況

基本戦略の実践により増収増益を達成したCCS。
ここでは7つの基本戦略のうち、特に重点を置いている
4つの戦略について、ご説明いたします。

LEDの輝度の向上

LED素子の発光効率率は2005～2006
年にいよいよ60lm/Wを超え、さらに高
輝度な素子が開発されています。

※当社調べ



1. ハロゲン・蛍光灯攻略商品による市場開拓 3種類の画期的な高輝度LED照



HSLシリーズ 赤、白、緑、青色の照度比較



自動車を中心とした大型 機械の製造ライン向けに LEDスポットライト照明「HSLシリーズ」

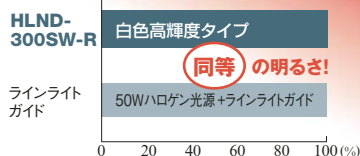
本製品は、自動車の組立ラインの検査などに用いられるスポットライト照明です。従来は250Wのハロゲン投光器が採用されていましたが、ハロゲン照明では、照射範囲が広い上に、常時点灯しなければならないため、消費電力が大きく、また、ランプ寿命が短いという問題がありました。LED照明ならわずか3～4.6Wの光源から必要な範囲に集光照射し、ハロゲン照明と同等の明るさが得られます。またオン・オフの間欠使用も可能で、低消費電力かつ長寿命です。光源をハロゲンからLEDに置き換えるだけで、CO₂排出量の大幅削減に貢献できます。今後、各自動車メーカーの全世界の工場への採用を期待しています。



ラインセンサ市場向けに ラインセンサカメラ用LED照明 「HLNDシリーズ」

エリアセンサカメラが対象物を面でとらえるのに対し、ラインセンサカメラは線でとらえるものであり、主に印刷物やフィルムなどのシートものの検査に使われます。その照明には十分な光量が必要とされるため、従来、ハロゲン照明や高輝度蛍光灯が用いられていました。HLNDシリーズはハロゲン照明と同等の明るさを実現しながら、ハロゲン照明よりも均一性が高く、しかも長寿命で低価格という照明です。また、2006年7月に欧州(EU)で施行されるRoHS指令において有害物質に該当する水銀を含むことから、蛍光灯が将来的に使えなくなる可能性があるため、置き換えニーズが高まっており、これから国内外で大きな需要を見込んでいます。

50Wハロゲンライン照明 との明るさの比較



社員が語る開発秘話

技術本部光学技術課 (LFX商品開発担当) 鹿野 雄一



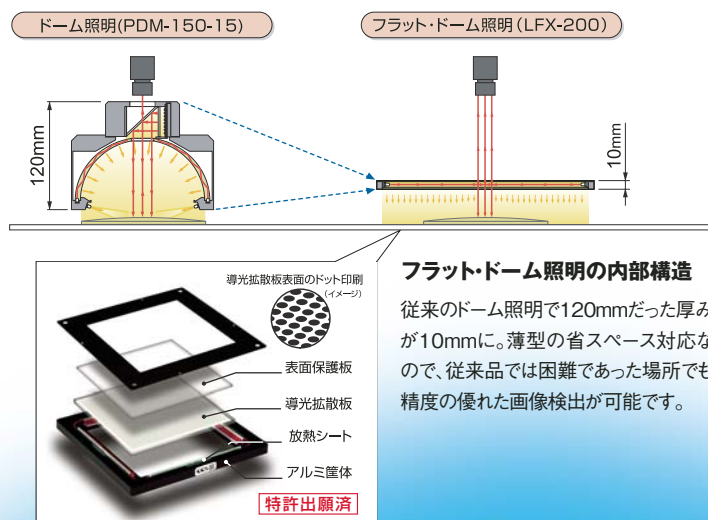
透過プレートに導光させる「光の当て方」は導光板の品質が重要な鍵となるため、その評価技術を開発し、品質向上を実現しました。また組み立てやすさに配慮し、何度も試作して形状を工夫しました。導光板の評価技術も、組立技術も、製造部門との連携が成功の秘訣だったと思います。

技術本部光学技術課 (LFX基礎開発担当) 斎藤 満



LFXは透過プレート上のドットパターンを利用した画期的な照明です。いかにワーク(対象物)側に光を通し、ワークを照らす光以外はレンズに入射させないようにするかで非常に苦心しました。材料・形状などを変えて何度も実験し、試行錯誤の末、今回の特殊構造を完成したのです。

明を新発売しました。



食品、医薬品、 化粧品業界向けに フラットドーム照明「LFXシリーズ」

食品、医薬品、化粧品のいわゆる「3品業界」向けに開発したLED照明です。凹凸があり光沢のあるもの、例えば飲料缶や錠剤シートなどのピンホールや汚れの検査に適しています。従来は高さ100~200mmもあるドーム照明および同軸照明を使っていましたが、CCSは独自技術でこれをフラットにし、10mm程度の薄さで同等の機能を果たすLED照明を開発。3品業界のみならず、幅広い業界から多数の引き合いが来ています。曲面状のプラスチック成形品の検査にも適しており、多彩なアプリケーションが期待できます。

Asia

世界中のメーカーの工場が
集中するアジア各地で
画像処理の重要性が高まっています。

Europe

環境先進国で環境負荷の少ない
LED照明への置き換えに
拍車がかかっています。

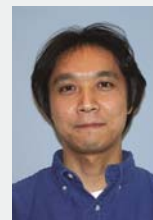
North America

LED照明の高輝度化により、
自動車業界を中心に採用が
相次いでいます。

社員が語るユーザーの反響

Internal Communication Manager,
CCS Europe / 塩津 文昭

CCS Europeのあるベルギーは欧州の中央に位置するため、お客様は多方面にわたり、各国によってニーズも実に多様です。欧州にはCCSほど高い技術力を持った照明メーカーはなく、ユーザーや代理店の方々にライティングの説明をすると、その品質と品揃えに驚かれ「ぜひ使いたい」という声をいただきます。



2. グローバル化の推進 世界中で技術サポートを強化しました。

当期上半期の業績を地域別で見ると、欧州市場はCCSの照明を全面採用している半導体検査装置メーカーの業績の伸びに伴い、対前年同期比154%増の高い伸びを示しました。

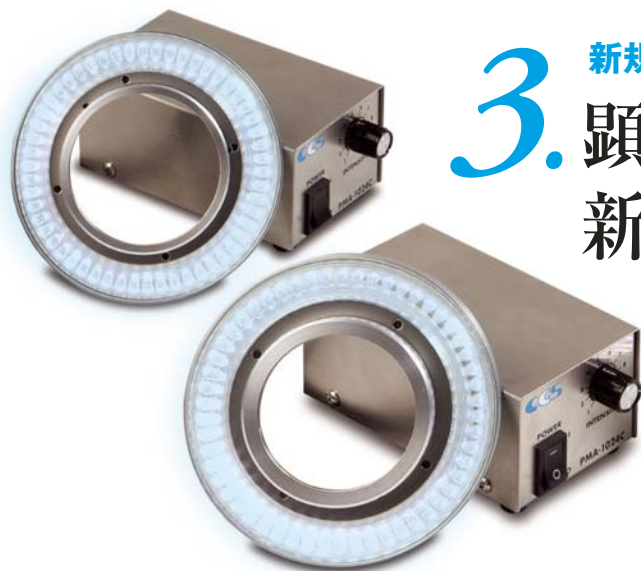
一方、北米市場は、画像処理業界の統合・再編を受けて一時的に伸びが鈍化。アジア市場は韓国・台湾の電子・半導体業界向けを中心にハイエンド製品の需要が増えつつあります。

前期に世界四極（日本、北米、欧州、アジア）に拠点を設置したことで、技術サポートを付加したライティング・ソリューションを一層強化できるようになりました。現地法人に寄せられる案件は増加しており、現地人スタッフが迅速に対応して販路拡大を図っています。



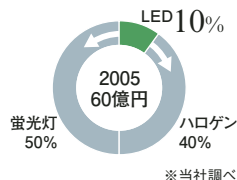
3. 新規事業の確立

顕微鏡分野、農業分野において 新製品を投入しました。



顕微鏡用LED照明の ラインナップが拡充

実体顕微鏡用LED照明「CSRシリーズ」の新製品として、蛍光灯の数倍明るく、従来のLED照明の2倍以上明るい「CSR-540SW／600SW」を当期上半期に発売しました。今後、顕微鏡用照明はLED化が進むこと
光学顕微鏡用照明市場
は間違いなく、CCSの技術力に大きな期待が寄せられています。強力な新製品と充実した製品ラインナップによって、シェア拡大を目指します。



社員が語るユーザーの反響

営業本部第2営業部事業開発課／田中 慎也

顕微鏡用LED照明は、ハロゲン照明や蛍光灯ではなし得ない自由度の高さ、寿命の長さ、環境へのやさしさがお客様から喜ばれています。LEDの特性を熟知したCCSだからこそ、お客様の声を製品に反映できると自負しています。顕微鏡用照明分野の先駆者になるのが現在の目標です。



事業採算性の実証に向けて実験中

千葉県野田市の植物実験プラントは、植物工場の事業採算性を検証するための施設で、レタス等の野菜の育成・販売を行っています。植物工場用LED照明を販売することを目的として取組んでおります。



小型の植物育成用照明ユニットを新開発

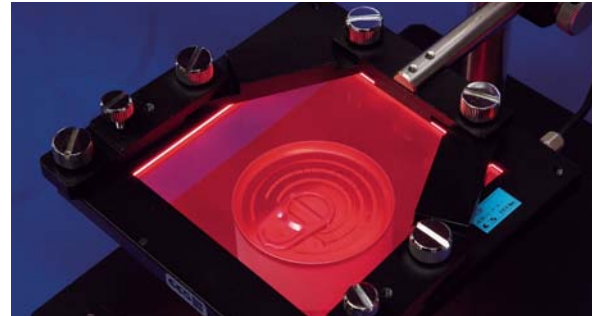
研究用途が主体の植物育成用照明ユニットは、導入しやすい価格・サイズであることが求められます。そこでCCSは2005年4月発売の「ISシリーズ」を小型化して機能を絞り込んだ「IS-mini」を開発。低価格・高光量を実現しました。2006年3月より販売開始し、大きな反響を得ています。



4. 知的財産の強化 ～権利行使と保護～

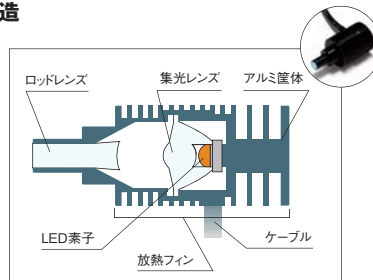
これから知的財産の強化に取り組めます。

多くのLED照明を生み出してきたCCSは、知的財産権の保護を経営戦略の重要テーマに掲げています。新製品を世に出すときは知的財産権の出願を行い、逆に出願できないような製品は世に出さないという姿勢で出願・登録件数を重ねてきました。知的財産権の抵触に対しては、厳しい姿勢で臨んでまいります。また国際特許に関しては、国内での反響をベースに、その効果と価値が認められるものについて、欧州と米国を中心に積極的に出願してまいります。



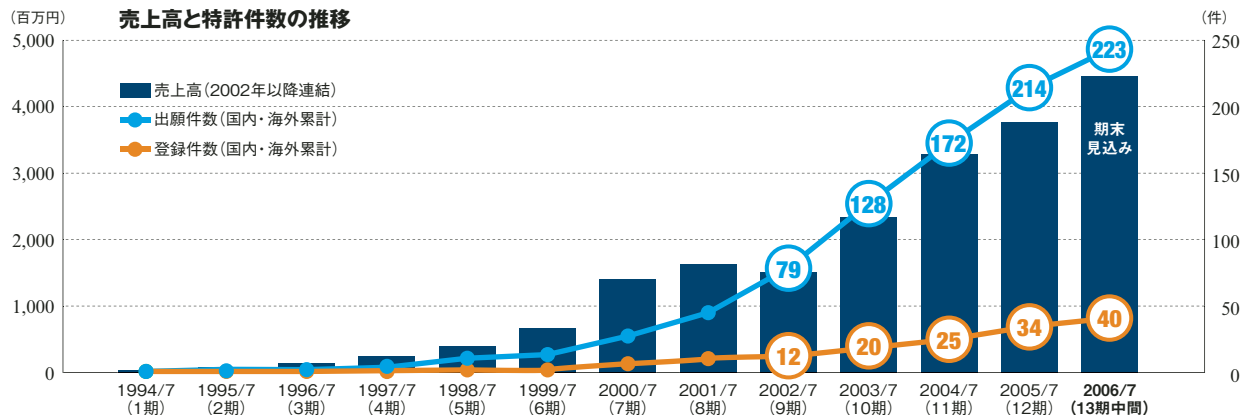
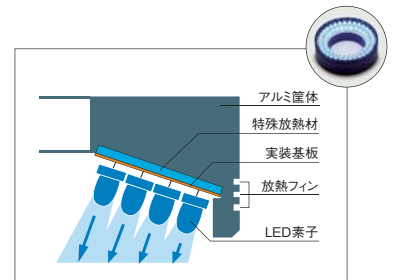
特許技術.1 集光照射構造

パワーLEDから出た光を集光し、高輝度で均一な照射が可能となる構造で、光のロスを抑えて効率よく照らすことができます。また、離れた所から照射する場合も十分な光を対象物に照射できます。



特許技術.2 放熱構造

高輝度を実現するには熱を逃がす技術が不可欠です。通常、半田部の温度が100℃まで上がってしまうところを、CCSの放熱技術により、60℃程度に抑えられます。これにより、輝度劣化を低減し、LED照明の長寿命化を実現します。



2005年9月

業界初 フラット・ドーム照明 「LFXシリーズ」を発売

フラットな形状でありながら、従来のドーム照明および同軸照明の機能を併せ持った画期的なフラット・ドーム照明を発売しました。

2005年12月

環境にやさしい高輝度LEDスポット ライト照明「HSLシリーズ」を発売

ハロゲン投光器と置き換え可能な高輝度LEDスポットライト照明を発売。低消費電力・長寿命の環境にやさしいLED照明です。

ラインセンサカメラ用LED照明 「HLNDシリーズ」を発売

ラインセンサ市場攻略商品として、ハロゲン照明と同等の明るさを実現したラインセンサカメラ用LED照明を発売しました。

LED植物育成ユニットを 「LEDEX JAPAN 2005」に出展

11月30日(水)～12月1日(木)、東京・港区の明治記念館で開催された「LEDEX JAPAN 2005」にLED植物育成ユニット「ISシリーズ」を出展しました。

ゆらぐLED灯籠150基を大覚寺に設置

12月9日(金)から10日間、寺院などをライトアップする「京都・嵐山花灯路-2005」において、CCSの灯籠が大覚寺の本堂や通路に設置されました。



'05国際画像機器展に出展

12月7日(水)～9日(金)、パシフィコ横浜で開催された「'05国際画像機器展」に高輝度LED照明を中心とする新製品を出展しました。

「デロイト アジア太平洋地域 テクノロジー Fast500」を受賞

アジア太平洋地域で急成長を遂げているテクノロジー企業のランキングでCCSは上位500社の1社に選ばれました。

2006年1月

実体顕微鏡用LED照明 CSRシリーズに新機種を追加

従来の実体顕微鏡用LED照明「CSRシリーズ」に汎用性を持たせた対応機種拡張タイプ「540SW」と「600SW」を追加しました。

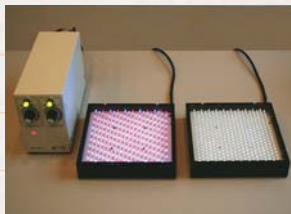


「第23回エレクトロ テストジャパン」に出展

1月18日(水)～20日(金)、東京ビッグサイトで開催された「第23回エレクトロテストジャパン」に高輝度LED照明を中心とする新製品を出展しました。

圧倒的光量を低価格で実現「IS-mini」

小型ながら他社製品に比べ3倍以上の光量(当社比較)を実現した植物研究ユニットです。LED照明は比較的特定の波長のみを照射することができるため、研究目的に沿った光環境設定が可能。場所を選ばないコンパクトサイズで導入しやすい価格ですので、さまざまな実験にお使いいただけます。



個人投資家向け説明会を開催

2005年12月17日(土)、個人投資家向け会社説明会を東京において開催し、多数の個人投資家の皆様にご参加いただきました。社長・米田賢治による会社説明の様子は、当社ホームページにて動画をご覧ください。次回は2006年7月8日(土)に名古屋での開催を予定しています。



中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表(要約)

(単位:千円)

	科 目	当 中 間 期 2006年1月31日現在	前 中 間 期 2005年1月31日現在
	資産の部		
POINT ①	流動資産	2,493,838	2,001,152
	現金及び預金	663,338	406,005
	受取手形及び売掛金	1,223,016	992,565
	たな卸資産	533,819	545,305
	繰延税金資産	55,298	41,467
	その他	22,045	18,575
	貸倒引当金	△ 3,679	△2,767
POINT ②	固定資産	917,028	845,366
	有形固定資産	723,018	690,263
	建物及び構築物	362,610	261,483
	工具器具備品	118,524	63,410
	その他	2,150	2,935
	土地	239,733	239,733
	建設仮勘定	—	122,700
	無形固定資産	114,239	87,259
	投資その他の資産	79,770	67,842
	繰延税金資産	46,093	37,387
	その他	34,051	31,955
	貸倒引当金	△ 374	△1,500
	資産合計	3,410,867	2,846,518

(単位:千円)

	科 目	当 中 間 期 2006年1月31日現在	前 中 間 期 2005年1月31日現在
	負債の部		
	流動負債	608,261	427,579
	買掛金	161,417	108,514
	短期借入金	—	60,000
	一年以内返済予定長期借入金	106,264	39,940
	未払金	171,331	108,993
	未払法人税等	86,453	43,960
	賞与引当金	50,270	43,148
	その他	32,524	23,022
	固定負債	452,280	400,736
	長期借入金	348,601	310,135
	退職給付引当金	15,898	12,243
	役員退職慰労引当金	86,674	77,327
	繰延税金負債	1,106	1,030
POINT ③	負債合計	1,060,542	828,315
	資本の部		
	資本金	457,050	452,970
	資本剰余金	572,350	568,270
	利益剰余金	1,319,390	1,009,346
	為替換算調整勘定	1,534	△12,383
POINT ④	資本合計	2,350,325	2,018,202
	負債・資本合計	3,410,867	2,846,518

当中間期のポイント

POINT ① 流動資産

売上高の増加に伴い、現金及び預金が2億57百万円増(前年同期比)、受取手形及び売掛金が2億30百万円増(前年同期比)となり、総額で4億92百万円増(前年同期比)の24億93百万円となりました。

POINT ② 固定資産

生産設備等の取得を含む有形固定資産が32百万円増(前年同期比)、ソフトウェアの導入等による無形固定資産が26百万円増(前年同期比)となり、総額で71百万円増の9億17百万円となりました。

POINT ③ 負債合計

買掛金、一年以内返済予定長期借入金、未払金を含む流動負債が1億80百万円増(前年同期比)、長期借入金が38百万円増(前年同期比)となり、総額で2億32百万円増(前年同期比)の10億60百万円となりました。

POINT ④ 資本合計

中間純利益の計上等により利益剰余金が3億10百万円増(前年同期比)となり、資本合計は3億32百万円増(前年同期比)の23億50百万円となりました。

中間連結損益計算書(要約)

(単位:千円)

	科 目	当 中 間 期 2005年8月1日から 2006年1月31日まで	前 中 間 期 2004年8月1日から 2005年1月31日まで
POINT 5	売上高	2,155,933	1,687,617
	売上原価	855,480	601,854
	売上総利益	1,300,452	1,085,763
POINT 6	販売費及び一般管理費	1,018,731	911,981
	営業利益	281,721	173,782
	営業外収益	22,433	1,777
	受取利息	1,490	335
	為替差益	18,090	—
	保険積立金解約返戻金	1,907	730
	その他	944	711
	営業外費用	6,553	12,758
	支払利息	4,115	3,813
	新株発行費償却	193	456
	為替差損	—	8,400
	その他	2,244	88
	経常利益	297,602	162,800
	特別利益	6,945	4,251
	貸倒引当金戻入額	268	4,251
	固定資産売却益	176	—
	訴訟和解金	6,500	—
	特別損失	3,297	2,375
	固定資産売却損	81	—
	固定資産除却損	3,215	2,375
	税金等調整前中間純利益	301,250	164,677
	法人税、住民税及び事業税	93,079	56,403
	法人税等調整額	△1,049	9,184
POINT 7	中間純利益	209,220	99,089

POINT 5 売上高

世界的な電子・半導体業界の復調により、国内22.0%増(前年同期比)、欧州154%増(前年同期比)、アジア37.5%増(前年同期比)となり、一方、業界再編の影響により北米は9.4%減(前年同期比)となったものの、総額で27.8%増(前年同期比)と順調に推移しました。

POINT 6 販売費及び一般管理費

ハログен・蛍光灯置き換え攻略商品および新規事業における新製品投入のための研究開発費と組織体制強化に向けた人員増員による人件費の増加により、11.8%増(前年同期比)となりました。

POINT 7 中間純利益

特別利益として訴訟和解金受取および海外子会社の税率差異等により、前年同期比111.1%増となりました。

中間連結剰余金計算書(要約)

(単位:千円)

科 目	当 中 間 期 2005年8月1日から 2006年1月31日まで	前 中 間 期 2004年8月1日から 2005年1月31日まで
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	569,950	550,750
資本剰余金増加高	2,400	17,520
新株予約権行使による増加高	2,400	17,520
資本剰余金中間期末残高	572,350	568,270
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	1,140,829	954,956
利益剰余金増加高	209,220	99,089
中間純利益	209,220	99,089
利益剰余金減少高	30,660	44,700
配当金	30,660	29,700
役員賞与	—	15,000
利益剰余金中間期末残高	1,319,390	1,009,346

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:千円)

	科 目	当 中 間 期 2005年8月1日から 2006年1月31日まで	前 中 間 期 2004年8月1日から 2005年1月31日まで
POINT 8	営業活動によるキャッシュ・フロー	198,015	39,136
POINT 9	投資活動によるキャッシュ・フロー	△68,466	△217,920
POINT 10	財務活動によるキャッシュ・フロー	△78,235	△2,483
	現金及び現金同等物に係る換算差額	25,101	△760
	現金及び現金同等物の増加額	76,414	△182,028
	現金及び現金同等物の期首残高	552,811	552,726
	現金及び現金同等物の中間期末残高	629,225	370,697

POINT 8 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前中間純利益は3億1百万円で、減価償却費を45百万円計上、売上債権は53百万円減となったものの、たな卸資産が89百万円増、法人税等の支払額が1億51百万円あり、当中間期に営業活動の結果得られた資金は、1億98百万円となりました。

POINT 9 投資活動によるキャッシュ・フロー

生産設備および研究開発工具等の有形固定資産取得により28百万円、研究開発管理用のソフトウェアの導入等による無形固定資産取得により37百万円の支出があったことから、当中間期に投資活動の結果支出した資金は、68百万円となりました。

POINT 10 財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入金の返済による53百万円の支出、配当金の支払額29百万円等により、当中間期に財務活動の結果支出した資金は78百万円となりました。

中間個別財務諸表

中間個別貸借対照表(要約) (単位:千円)

科 目	当中間期 2006年1月31日現在	前中間期 2005年1月31日現在
資産の部		
流動資産	2,210,669	1,858,226
現金及び預金	479,325	283,737
受取手形	600,883	581,500
売掛金	612,981	414,134
たな卸資産	465,459	512,322
繰延税金資産	40,468	35,850
関係会社短期貸付金	—	20,722
その他	13,660	11,733
貸倒引当金	△ 2,109	△ 1,774
固定資産	1,092,089	959,317
有形固定資産	716,404	686,888
建物	362,610	261,276
車両運搬具	1,985	2,915
工具器具備品	111,910	60,055
その他	164	207
土地	239,733	239,733
建設仮勘定	—	122,700
無形固定資産	69,369	34,683
ソフトウェア	39,446	34,292
ソフトウェア仮勘定	29,493	—
その他	429	390
投資その他の資産	306,315	237,745
関係会社株式	171,383	171,383
関係会社長期貸付金	56,928	—
繰延税金資産	46,134	37,387
その他	32,344	30,474
貸倒引当金	△ 474	△ 1,500
資産合計	3,302,759	2,817,543

(単位:千円)

科 目	当中間期 2006年1月31日現在	前中間期 2005年1月31日現在
負債の部		
流動負債	550,120	409,828
買掛金	152,984	100,504
短期借入金	—	60,000
一年以内返済予定長期借入金	106,264	39,940
未払金	129,802	112,239
未払法人税等	84,890	37,193
賞与引当金	50,270	43,148
その他	25,907	16,802
固定負債	451,173	399,706
長期借入金	348,601	310,135
退職給付引当金	15,898	12,243
役員退職慰労引当金	86,674	77,327
負債合計	1,001,294	809,535
資本の部		
資本金	457,050	452,970
資本剰余金	572,350	568,270
資本準備金	572,350	568,270
利益剰余金	1,272,064	986,768
利益準備金	7,000	7,000
任意積立金	1,095,053	898,536
中間未処分利益	170,011	81,232
資本合計	2,301,464	2,008,008
負債・資本合計	3,302,759	2,817,543

中間個別損益計算書(要約) (単位:千円)

科 目	当中間期 2005年8月1日から 2006年1月31日まで	前中間期 2004年8月1日から 2005年1月31日まで
売上高	1,850,930	1,504,799
売上原価	780,571	591,193
売上総利益	1,070,359	913,605
販売費及び一般管理費	853,027	800,070
営業利益	217,331	113,534
営業外収益	20,645	1,272
受取利息	1,047	333
為替差益	16,823	—
保険積立金解約返戻金	1,907	730
その他	866	209
営業外費用	6,553	12,885
支払利息	4,115	3,697
為替差損	—	8,643
新株発行費償却	193	456
その他	2,244	88
経常利益	231,423	101,921
特別利益	6,768	4,251
貸倒引当金戻入額	268	4,251
訴訟和解金	6,500	—
特別損失	3,297	2,282
固定資産売却損	81	—
固定資産除却損	3,215	2,282
税引前中間純利益	234,894	103,890
法人税、住民税及び事業税	77,500	33,000
法人税等調整額	1,025	3,852
中間純利益	156,369	67,038
前期繰越利益	13,642	14,193
中間未処分利益	170,011	81,232

会社概要／株式の状況

2006年1月31日現在

会社概要

社名	シーシーエス株式会社
本社所在地	〒602-8011 京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴門町374番地 TEL. 075-415-8280(代表) FAX. 075-415-8281(代表)
設立	1993年10月6日
資本金	457,050千円
従業員数	187名(連結) 167名(単独)
取引銀行	三菱東京UFJ銀行・みずほ銀行・京都銀行
事業内容	●画像処理用LED照明装置および制御装置の開発、製造、販売 ●植物育成用LED照射装置および制御装置の開発、製造、販売 ●医療用LED照明応用製品の開発、製造、販売 ●顕微鏡光源用LED照明装置および制御装置の開発、製造、販売
事業所	東京営業所、上海駐在員事務所、CCSロジスティックセンター
関連会社	CCS America, Inc. RDV(S)PTE LTD CCS Europe NV

役員

代表取締役社長	米田 賢治	監査役	入江 英典
常務取締役	和田 浩興	監査役	河内 英昭
取締役	吉田 新樹		
取締役	松室 伸二		
取締役	村上 豊		

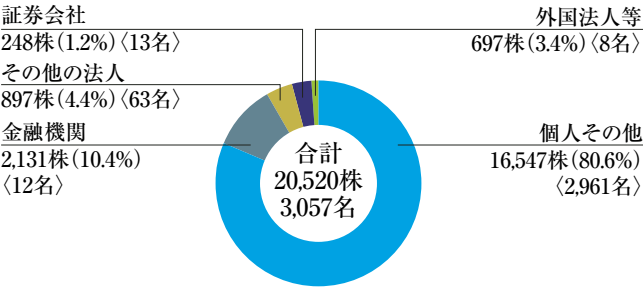
株式の状況

会社が発行する株式の総数	33,600株
発行済株式の総数	20,520株
売買単位	1株
株主数	3,057名

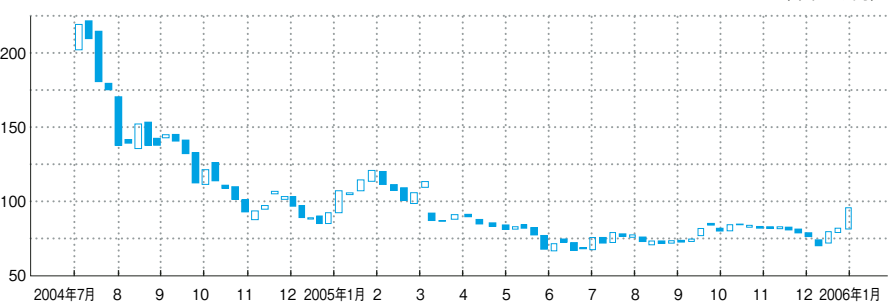
大株主

株主名	所有株式数	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合
米田賢治	7,750株	37.8%
資産管理サービス信託銀行株式会社	666株	3.2%
日本証券金融株式会社	389株	1.9%
日興シティ信託銀行株式会社	375株	1.8%
杉島凱夫	330株	1.6%
シーシーエス従業員持株会	297株	1.4%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	297株	1.4%
ザチエスマンハッタンバンクエヌエイロンドン	273株	1.3%

株主構成



株価の推移



ホームページのご案内

ホームページにアクセスしていただきますと、CCSの各種情報をご覧いただけます。「投資家情報」のページには、IRカレンダー、財務ハイライト、株価情報をはじめ、各種開示資料を掲載しています。決算短信や説明会資料は「IR資料ライブラリー」に過去のものから最新のものまでを開示しております。「お問い合わせ」のページもございますので、ご意見・ご質問等、皆様のお声をお寄せいただければ幸いです。

<http://www.ccs-inc.co.jp>



投資家情報トップ画面
株主の皆様と当社とのコミュニケーション窓口です。

株主メモ

決 算 日	毎年7月31日
定時株主総会	毎年10月
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
同 取 次 所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店
公 告 の 方 法	電子公告 公告掲載 URL (http://www.ccs-inc.co.jp) (ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。)
株 主 確 定 日	毎年7月31日 中間配当金の支払いを行うときは毎年1月31日
上場証券取引所	JASDAQ
証 券 コ ー ド	6669

免責条項

本報告書に掲載している将来に関する予想については、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、異なる場合があることをご承知おください。

CCS Inc.
CREATIVE CUSTOMER SATISFACTION

シーシーエス株式会社

<http://www.ccs-inc.co.jp>

〒602-8011 京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴円町374番地
TEL: 075-415-8291 FAX: 075-415-7724

お問い合わせ先 E-mail: koho@ccs-inc.co.jp

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています。

PRINTED WITH SOY INK™
植物性大豆インキを使用しています。